

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 (光藤雄一)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 12-18 年度に限る)

例: (欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

- 光藤雄一 眼球を利用した光軸を選択可能な光空間通信システムのモデル Vol. 11 (2006), No. 1 pp.153-160
- Yuichi Mitsudo Pointing and Retrieving: A Data Translation Model for Real World Computing 7th International Conference on Mobile Data Management (MDM'06) p. 103 (Jun,2006)
- 川嶋稔夫・谷杉泰苗・光藤雄一 センシングトレイとIDウェアを用いた摂食モニタリングシステム (第32回福祉情報工学研究会) (Jul.2006)
- 光藤雄一 映像による光信号の選択手法のモデル 第41回ヒューマンインタフェース学会研究会 (Dec,2006)

2) 学会活動 (役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など (平成 12-18 年度に限る)

例:

学会などの名称

& 編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間 (年月)

註: 専門分野によっては適宜変更 (例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

なし

3) 研究費獲得状況 (未来大学外からの財源) (科学研究費、財団助成金、委任経理金など
(平成 12-18 年度に限る))

例:

#平成 12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究 (相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費 (例:平成 12 年度; 800 千円、平成 13 年度; 500 千円)

平成 17 年度 シーズ育成試験

光軸を簡易に設定可能な光通信システムの研究

光藤雄一、鈴木孝司

1500 千円

4) その他 (特許、内地研究 (学内共同研究は除外) および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成 12-17 年度に限定しない。)

特許出願 2006-326-126 光信号受信装置及び光信号受信方法

特許出願 2006-326-127 光信号受信装置、光信号受信方法、光信号送信装置及び光信号送信方法

2 教育業績

1) 教育負担の実態 (複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ) 本項目は時間割に含まれた教科 (補講・補習など教室で行なったものは含む) を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。(平成 12-18 年度に限る)

例:

#科目名 (講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数 (単独の場合は不要)

&実施期間 (平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月)、実施コマ数 (休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数 (例:実施 13 コマ、休講 2 コマ)

\$ 実働時間数 (全て、実時間合計(推定)値をお願いします)、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください (例: 実働 22.5 時間)

%受講登録学生数 (例: 45 名)、平均的出席者数 (例: 38 名; 初めは 40 名、終りは 25 名など)、単位認定 (合格) 者数

註: 本項目はできるだけ正確をお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

\$ 平成 17 年度 (前)	数学総合演習 I (2 名)	$2.5 \times 6 = 1.5$ 時間、	% 89・86・87 名
\$ 平成 17 年度 (後)	数学総合演習 II (2 名)	$2.5 \times 7 = 1.7.5$ 時間、	% 89・84・87 名
\$ 平成 18 年度 (前)	数学総合演習 I (2 名)	$2.5 \times 6 = 1.5$ 時間、	% 84・82・82 名
\$ 平成 18 年度 (後)	数学総合演習 II (2 名)	$2.5 \times 7 = 1.7.5$ 時間、	% 84・80・81 名
\$ 平成 18 年度 (前)	プログラミング演習 (1 名)	$2.5 \times 13 = 3.2.5$ 時間、	% 45・43・43 名

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生 (社会) が納得するような具体的説明。) また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

出席点及び、普段の課題提出状況を最大限に考慮した。課題提出形式の授業であったので、毎回の提出状況および採点結果で採点 (数学総合演習 I,II) 出席点、普段の課題の提出状況および、検定試験 (3 回) の結果

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

数学総合演習では、平成 17 年度より授業中に課題の半分程度 (60 点分) の採点を行う方式を取り入れた。この方法は、学生が解答を行っているところに直接介入できるため、学生が理解できていないところを個別に対応でき、授業の基本的な部分の理解を徹底できる利点がある一方、教員および TA が学生の採点にまわるため、時間が掛かる欠点を指摘された (18 年度からは TA が 1 名増えた)。また解析学との連携を更に深め、解析学で提出された課題を再度演習で解かせるなどし、同じ問題を時間差で何度も解かせることで、内容を定着させる方法を試みた。

プログラミング演習では、主に学生からの質問に答えてまわる作業を行ったが、初学の学生は、プログラミングになれるまでにある程度の時間が必須であるため、授業時間以外でも顔を出し、演習内容を解説するなどを試みた。

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して

戴いても結構です。)

--

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成 12-18 年度に限る）

--

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 12-18 年度に限る）

--